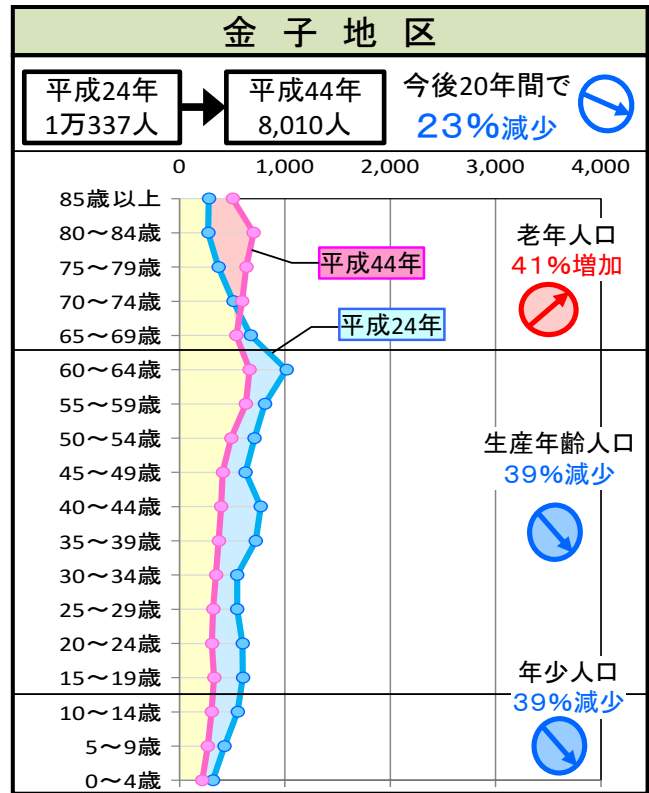


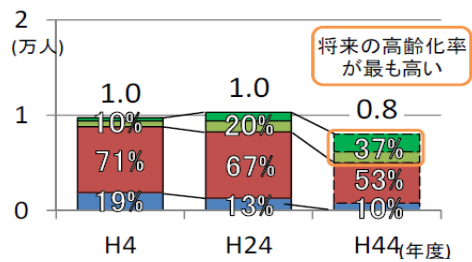
金子地区の概要

【人口動向】



【人口動向の特徴】

- 市内でも人口減少率が最も高く、高齢者人口割合が最も高い地区です。また、今後20年間で70歳以下の人口がすべて減少することへの対応も求められます。
- 今後は人口構成の変化による利用ニーズを詳細に把握し、地区内に必要な機能の再整備が求められます。



	平成 24 年(比率)	平成 44 年(比率)
老年人口	2,103 人(20%)	2,971 人(37%)
生産年齢人口	6,941 人(67%)	4,253 人(53%)
年少人口	1,293 人(13%)	786 人(10%)

【公共施設の配置状況】

施設の種類		施設名
地域対応施設	公民館	金子公民館
	小学校	金子小学校
	中学校	金子中学校
	保育所	金子第一保育所 金子第二保育所
	学童保育室	金子第一学童保育室 金子第二学童保育室
広域対応施設		農村環境改善センター 農業研修センター

【施設配置の特徴】

- 公民館は、支所、図書館（分館）を併設した複合施設です。
- 地区内に保育所、学童保育室が2施設ずつあり、統合の対象となります。
- 広域対応施設としては、農村環境改善センター、農業研修センターといった農業関係施設があります。
- 地区体育館は、存在しませんが、農村環境改善センター内にある大ホールで、運動などを行うことができます。

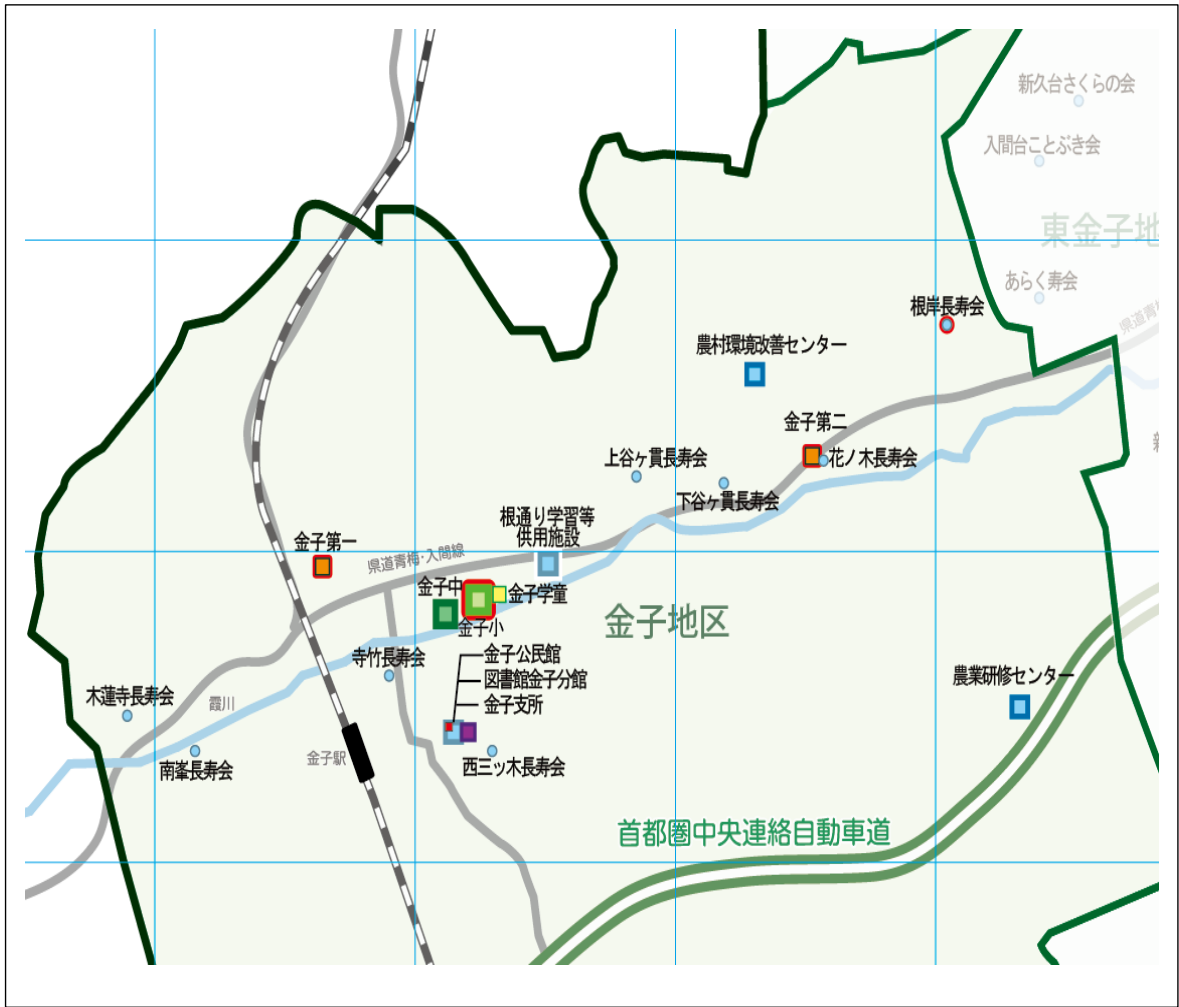
【公共施設の現状と課題】

- 公民館は、建設から24年が経過しており、今後計画的な改修を行う必要があります。また、施設の稼働率が32%と低いため、改修のタイミングに合わせてニーズに合ったサービスや機能の見直しが必要です。
- 小学校は築52年を経過しており、老朽化しています。今後は、耐用年数を見据えて、更新を検討する必要があります。児童数については、ピーク時（22学級・823人）と比較して、5割程度になっており、なお減少傾向にあります。
- 中学校は築32年経過しており、今後、計画的に改修を行う必要があります。生徒数については、ピーク時（12学級・453人）と比較して、5割程度になっており、なお減少傾向にあります。
- 保育所2施設については、いずれも建設から40年以上経過しており、更新が必要になっていますが、児童数は減少しているため、更新のタイミングで統合を検討する必要があります。
- 学童保育室については、小学校敷地内に2施設（平成2年築・平成28年築）あります。

【地区の成り立ちと現状、将来の見通し】

- 地形的には、南部が平坦地、北部が丘陵となっており、農地や山林が地区の多くを占めています。西部は青梅市、南部は瑞穂町、北部は飯能市に隣接しており、3自治体の中では青梅市との結びつきが強い地区です。
- 金子地区には、JR八高線の金子駅があり、バス路線は、入間市駅と河辺駅を結ぶ路線バスが運行されており、各公共施設とバス停からの距離も比較的近い状況です。
- 住居はおおむね霞川沿いに存在し、住居地区を分断する地形的要素は少なく、共同住宅も少ないため市内では最も人口密度が低い地区です。
- 大きな宅地開発などが行われていませんが、これまで人口は緩やかに増加してきました。しかし平成18年をピークに、人口は減少傾向に転じました。今後、市内で高齢化率が最も高くなると予測され、生産年齢人口は大きく減少する見込みとなっています。

【施設配置図】



【公民館の現状と課題】

①建物状況

	延床面積	建設年度	築年数	構造	土地所有
金子公民館	1,400.60 ㎡	平成 5 年	24 年	RC 造	市・個人

- ・老朽化が進んでおり、計画的な修繕対策の検討が必要になっています。
- ・金子公民館は、敷地の一部が借地となっており、その解消を検討する必要があります。
- ・地域の中央付近に位置しており、拠点施設としては活用しやすい立地です。

②利用状況

	利用件数	利用者数	稼働率	住民 1 人当たりの年間利用回数	トータルコスト
金子公民館	2,540 件	38,341 人	32%	3.7 回	4,760 万円

- ・利用者数は、全公民館の平均利用者数 39,793 人を下回っています。
- ・稼働率は 32%で、全公民館の平均稼働率 34%を下回っています。
- ・住民一人当たりの年間利用回数を見ると、全公民館の平均利用回数 3.6 回を上回っています。
- ・トータルコストについては、全公民館の平均額 4,383 万円を上回っていますが、支所や図書館（分館）を併設する施設であるため、単純比較はできません。

【小中学校の現状と課題】

①建物状況

	延床面積	建設年度	築年数	構造	土地所有
金子小学校	4,944.00 ㎡	昭和 40 年	52 年	RC 造	市
金子中学校	6,816.00 ㎡	昭和 60 年	32 年	RC 造	市

- ・小学校は、老朽化が進んでおり、更新の検討が必要です。中学校は、建設から 30 年以上経過しており、計画的な改修が必要です。
- ・小中学校とも地区内に 1 施設ずつであり、統廃合の対象とはなりません。
- ・小中学校とも、地域の中央付近に位置しており、拠点施設としては活用しやすい立地です。

②利用状況（各年 5 月 1 日現在）

	平成 24 年度 児童生徒数	平成 24 年度 学級数	平成 29 年度 児童生徒数	平成 29 年度 学級数	児童生徒数 減少率
金子小学校	559 人	22 学級	422 人	15 学級	24%
金子中学校	283 人	9 学級	242 人	8 学級	14%

- ・児童生徒数は、5 年前と比較すると、金子小学校が 24%、金子中学校が 14%と大きく減少しています。
- ・地域内の一部の児童が、地域外の狭山小学校や新久小学校に通学しています。

【保育所の現状と課題】

①建物状況

	延床面積	建設年度	築年数	構造	土地所有
金子第一保育所	449.44 ㎡	昭和 43 年	49 年	RC 造	法人
金子第二保育所	426.27 ㎡	昭和 45 年	47 年	RC 造	市

- ・両施設とも、築 40 年超と老朽化が進んでおり、計画的な修繕対策の検討が必要となっています。
- ・金子第一保育所は、用地が法人所有の借地となっており、その解消が課題となっています。
- ・施設の老朽化が児童数の減少につながっている可能性があります。

②利用状況

	定員	平成 24 年度 入所児童数	平成 29 年度 入所児童数	減少率
金子第一保育所	120 人	74 人	45 人	39%
金子第二保育所	84 人	57 人	46 人	19%

- ・入所児童数は、5 年前と比較すると、金子第一保育所が 39%、金子第二保育所が 19%と両施設とも大きく減少しています。
- ・2 施設を合わせると、定員 204 人に対して、91 人であり、入所児童数が 5 割弱となっています。
- ・入所児童数は過去 5 年間で徐々に減少しており、社会全体で待機児童の問題が発生していることを考慮すると、施設配置や運営形態等が市民ニーズに合っていない可能性があるため、調査する必要があります。
- ・地区内には民間施設がないため、公立保育所の役割を改めて確認する必要があります。

《金子地区の検討課題》

- ・地区センター化については、既存の公民館施設の活用を前提に検討します。なお、施設内の図書館（分館）については、学校との複合化についても検討する必要があります。
- ・小学校については、同じエリアに多くの公共施設が集まっている現在の配置を維持し、既存施設の活用を前提として検討する必要があります。
- ・市内で最も広い地区であり、地区の端部（行政界）からの通学について、配慮する必要があります。
- ・2 施設ある学童保育室については、小学校の更新に合わせて、敷地内への複合施設棟の建設を検討します。
- ・中学校についても現在の配置を維持し、既存施設の活用を前提として検討します。
- ・2 施設ある保育所については、入所児童数が徐々に減少していることから、更新時期に合わせて統合を検討します。なお、建設場所については、利便性に配慮し、選定することとします。
- ・金子地区には地区体育館が存在しませんが、農村環境改善センターの多目的ホールが代替機能を担っており、当面は、この施設を存続させることで機能維持を図ります。
- ・地域コミュニティによる地域区分と通学区が異なるため、他の地区の動向を踏まえ、地域の実情に合わせた見直しを行う必要があります。

※各施設のデータは原則として「公共施設マネジメント白書」から引用